

1 保護・保全

自然公園法、文化財保護法による巡視体制との連携により、地域遺産の監視体制を引き続き行っている。また、日本郵便（株）との協定に基づく地域資産のパトロールや、エリア内で活動する民間団体との連携協定に基づいた日々の活動のなかでの巡視により、白山手取川ジオパークの資源や解説看板等の、汚損、破損状況などを連絡・通報する体制を継続してとっている。また、ジオサイト等に整備しているビュースポット周辺の見学地保全のため草刈りなどを定期的に行っている。

2 教育・研究

(1) 学校等における教育活動

小中学校や高等学校、体験イベント等においてジオパークを活用した学習を行った。今年度は、第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会に市内小中学校計9校が、口頭発表及びポスター発表に参加したことを受け、学校からのジオパーク学習サポートの依頼が増加した。

① ジオパーク遠足等の実施

白山市教育委員会主催の事業である感性のびのびジオパーク遠足を16小中学校で、延べ30回行った。各遠足では、ジオパーク学習支援員が活動をサポートした。

※ジオパーク学習支援員：退職教諭を中心としてグループを結成。

フィールド学習や総合的学習等においてジオパークを学習する際に教員を支援。令和4年度末時点では11名が活動中。

ジオパーク遠足の様子



湊小5年生 百万貫の岩にて



美川中1年生 美川地域にて

②高等学校における学習活動

鶴来高等学校において、協議会事務局員や白山手取川ジオパーク学習支援員による出前学習会の実施と、フィールド学習を行った。当校では、2015年度より継続してジオパークに関する学習活動が行われている。

③ジオパーク課外活動の実施（感性のびのびジオ・サタデー）

市内小学生を対象とした、白山市教育委員会の事業である感性のびのびジオ・サタデーの運営に協力し、自然や文化、歴史への総合的な理解を深めるためのジオパークを通じた体験学習を実施した。（全7回予定し、うち第2回のみ荒天により中止）



第3回 美川

④子どもジオパーク博士の養成

昨年度に引き続き、金沢星稜大学人間科学部こども学科の学生とともに、「感性のびのびジオ・サタデー」の特別編である「子どもジオパーク博士になろう」の企画・運営を行った。当該学科は教員免許の取得を目指す学生が多く、参加する子どもたちがジオパークへの理解を深められるだけでなく、学生自身も在学期間中に子どもと実際に触れ合い、将来のビジョンを描きやすくすることにも繋がっている。（7月30日実施 参加者15名）

「みんなで楽しもう めざせ！ジオパーク博士」の様子



⑤教職員を対象とした研修会の開催

現職の教員が自らの力でジオパーク教育を進められるよう、夏休み期間を活用し、市教職員を対象とした研修会や公益法人日本地震学会との共催で、教員免許更新講習などを継続して実施していたが、更新制度の廃止やジオパーク以外の教員研修会增加したことにより、令和3年度より実施日を指定した研修会の開催はなしとした。代わりに、研修を希望する学校、教員がいれば、個別に対応する方針へ変更した。

⑥エリア外の学校のジオパーク学習受け入れ

近隣地域の小学校1校、特別支援学校1校の出前授業依頼を受け入れ、計3回実施した。

過去のジオパーク遠足等、小中学校のフィールド学習実績

年度	回数
令和元	21
令和2	17
令和3	20

令和4年度 ジオパーク遠足等、小中学校のフィールド学習実績

	実施日	学校名	学年	行先
1	4月21日	鳥越中	1	鶴来
2	4月28日	光野中	1	鶴来
3	5月6日	蝶屋小	6	鳥越
4	5月20日	湊小	5	白峰
5	5月24日	湊小	5	白峰
6	5月30日	松任小	3	白峰
7	6月7日	旭丘小	3	松任
8	6月17日	美川中	1	美川
9	6月21日	北陽小	3	美川
10	6月22日	河内小	4、5	河内
11	6月22日	朝日小	3	美川
12	6月24日	東明小	4	鶴来
13	6月27日	松任小	3	鶴来
14	6月30日	蕪城小	5	美川
15	7月1日	蝶屋小	6	美川
16	8月31日	河内小	6	河内
17	9月2日	松陽小	3	美川
18	9月16日	北陽小	3	白峰
19	9月30日	白嶺小	1～6	美川
20	10月4日	河内小	4、5	鶴来
21	10月5日	松任小	3	美川
22	10月7日	松南小	4	鶴来
23	10月11日	旭丘小	4	鶴来
24	10月13日	鳥越中	1～3	美川
25	11月1日	東明小	4	鶴来
26	11月2日	旭丘小	5	白峰
27	11月4日	蕪城小	4	鶴来
28	11月9日	鶴来中	1	山麓
29	11月10日	石川小	4	鶴来
30	11月28日	北陽小	4	鶴来

(2) 高等教育機関との連携

地球科学に限らず、様々な分野において多数の高等教育機関と連携して事業を行っている。

①金沢大学「地域概論授業」

平成28年度より、金沢大学とは1年生を対象とした、地球科学と地域とのつながりを考える授業を継続して行っている。

②金沢大学「異文化体験授業」

当協議会の専門員が講師となって、出前授業及びフィールド学習を令和2年度より継続して実施している。

③金沢星稜大学「子どもジオパーク博士になろう」

平成28年度より、金沢星稜大学人間科学部こども学科の学生と、白山市生涯学習課との共催で「子どもジオパーク博士になろう」事業を継続して実施している。

④北陸学院大学短期大学部「英語でジオパークを紹介しよう」

北陸学院大学短期大学部コミュニティ学科の活動発表会をサポートした。当協議会の国際連携専門員が講師となって出前授業を行い、白山手取川ジオパークの紹介や、訪日観光客の視点でみた日本や白山手取川ジオパークの印象を話した。

⑤筑波大学フィールド学習の受け入れ

筑波大学が実施するフィールド学習の受け入れとサポートを行った。ジオパークとエコパークの連携、活動や管理運営について、大学生と事務局が意見交換を行った。

筑波大学受け入れの様子



(3) 公民館等による社会教育活動

学習講座等の教育活動を計11回実施した。白山市に在住して間もないベトナム人の技能実習生を対象として講習を行ったほか、公民館連合会3部会合同研修会では、白山手取川ジオパークのキャラクターであるジオ博士が登場し、ふるさとの宝物探しをテーマに講習を行った。

公民館における実施事業

実施日	名称
5月13日	まちかど市民講座（林真砂回）
5月19日	まちかど市民講座（石川情報交流事業協同組合）
6月24日	まちかど市民講座（石川地区壮年回会）
7月8日	白山市公民館連合会3部会合同研修会
7月22日	まちかど市民講座（石川情報交流事業協同組合）
8月24日	まちかど市民講座（ふれあいサロンひのみこ）
9月2日	まちかど市民講座（石川情報交流事業協同組合）
12月26日	まちかど市民講座（石川情報交流事業協同組合）
2月6日	まちかど市民講座（石川情報交流事業協同組合）
3月14日	まちかど市民講座（石川長生会）
3月23日	まちかど市民講座（吉田町いきいきサロン）

(4) 水の旅学学習会の開催

平成25年6月より、地形、岩石等様々なジオパークの分野を専門とする研究者などによる水の旅や石の旅に関する講演会及び現地見学会を実施している。令和4年度は「地球と旅する～白山手取川の地から地球と人の未来を考える～」をメインテーマに、第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会の開催に合わせ、過去、現在、未来の時間軸でみた地球の姿や、世界からみた白山手取川ジオパークの魅力について等を学ぶ講座を開講した。

令和4年度 水の旅学

	実施日	講師	テーマ
第1回	10月22日	真鍋真氏（国立科学博物館副館長・標本資料センターコレクションディレクター）	恐竜化石から過去、現在と未来の地球を考える

第2回	12月3日	川瀬宏明氏（気象庁気象研究所）	温暖化が進む地球～将来、北陸の雪は減る？増える？～
第3回	3月4日	福田崇之氏、山本正樹氏（金沢工業大学産学連携局）	環境負荷軽減に向けた金沢工業大学（KIT）の教育研究実践



第1回



第2回

（5）石の標本づくり

小学4年生以上の子どもと保護者を対象とし5月21日（土）に実施した。金沢大学理工学域と石川県地質調査業協会との3社を主催として、地質調査や大地のつくりに興味を持ってもらうことを目的に毎年春と秋に実施しているが、今年度は日本ジオパーク全国大会があったことから春のみ実施した。

参加した23名の子どもたちは、多様な石が見つかる道の駅しらやまさんの河原で石を探し、金沢大学の教授や地質調査業協会の職員に石の種類やでき方を教わりながら標本箱を作った。

（6）手取峡谷で石ころ探し

石川県白山自然保護センターと令和元年度より共催で行っている、親子向け事業「手取峡谷で石ころ探し」を令和4年度も実施した。川の働きや峡谷の成り立ち等について講義を行った後、バードハミング鳥越の河原にて岩石や地層の観察をし、大地のつくりや地形・地質のダイナミックさを体感した（実施日令和4年10月2日、参加者20名）。

(7) ESD ダイアログ

中部地方 ESD 活動支援センターが主催となって、北陸（富山、石川、福井）、長野、東海（岐阜、愛知、三重）を対象に各地域の ESD の取り組みを繋げ、地域間ネットワーク構築を図る「ESD ダイアログ 2022」が開催され、当地域からは白山手取川ジオパーク学習支援員が参加し、取り組みを発表した。当ダイアログは恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークが開催地となって開かれ、自然遺産を教材とした SDG s 教材に関する意見交換を行ったり、ユネスコのエコパークプログラムに関する議論を深めた。

(8) その他、教育活動

イオンスタイル白山チアーズに所属する子どもたちを対象に、山と雪のエリアの施設や見どころを紹介する研修を行った。金沢等の市外に住む子どもたちが、白山砂防科学館や桑島化石壁、白峰を訪れ、普段触れることのない自然や文化を学ぶ研修となった。

石川県立白山ろく民俗資料館と連携し、屋外で活動することが少ない放課後児童クラブ（学童保育）の児童を対象に行っている教育事業「山の子になろう」については、コロナ禍により未実施となった。

その他、でじむクラブにおいて、百万貫の岩や綿が滝などジオパークの主な見どころを親子で見学するツアーを行った。

(9) 学術振興事業

白山手取川ジオパークにおける人文科学・自然科学・工学（防災）の分野に関する研究助成を通じて、白山手取川ジオパークの学術振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的に研究助成事業を行った。手取川流域のブナ科樹木の堅果量をドローンで測定し、手取川流域のツキノワグマ出没を予測する研究など全3件が採択され、研究成果については、ジオパーク学習会「水の旅学」の特別編を開催して発表した。なお「水の旅学」特別編では、第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会で口頭発表を行った石川県立鶴来高校の生徒からも発表を行った。

令和4年度に採択された研究テーマ

- ・手取川流域におけるブナ科樹木の堅果量推定とツキノワグマの出没予測
- ・手取層群最上部・北谷層の有機地球科学に関する基礎研究
- ・日本海形成初期火山活動に関する研究

「水の旅学」特別編での研究発表の様子



3 ツーリズムの推進

(1) ジオツアーの開催・ガイド養成

白山手取川ジオパークを訪れた人の満足度をさらに高められるよう、継続して、各ジオツアーやガイド養成講座を実施している。

①魅力あるジオツアーの企画・開催

毎日開催ジオツアーは、白山市観光連盟実施ツアーの一つとして、昨年度に引き続き継続して実施した。この他、プライベートジオツアーが行われた。

また、第12回日本ジオパーク全国大会において、ポストジオツアーとして9ツアーを企画し、そのうち5ツアーが催行された。ツアーの企画は大会実行委員会だけでなく、白山市観光連盟および公認観光ガイドと連携して行った。

第12回日本ジオパーク全国大会ポストジオツアーの様子



②毎日開催型のジオツアーの企画

白山市観光連盟が企画・運営する毎日開催型のまち歩きツアーを行った。
(通年実施 参加者合計37名)

③公認観光ガイド養成講座および登録資格認定試験の実施

白山手取川ジオパーク公認観光ガイドの養成を目的として、全14回の講座を開講した。養成講座には6名の一般受講者があり、座学だけではなく、ガイドとして必要な技能を習得するための現場実習や救命救急研修などを実施した。認定試験には、筆記試験として白山検定の問題を使用したほか、面接試験を実施した。

また昨年度に引き続き、将来的な担い手を育成する目的も含め、ガイド養成講座を金城大学短期大学部の授業の一環として実施し、同大学部の学生が受講した。若い世代の感覚を身近に感じることで、一般受講者の経験値アップにもつながっている。

その他、市観光連盟と連携し、ガイドスキルアップ講座を開催した。令和4年度は、教育旅行への対応をテーマに実施した。

ガイドスキルアップ講座の様子



④旅行商品造成支援事業

ツアー造成促進のため、令和2年度から新たに始めた事業であるが、新型コロナウイルス感染症拡大等の理由により、未実施となった。

実施ツアー等一覧

開催日	ジオツアーコース名	参加人数
10月23日～ 10月24日	ポストジオツアー① ぐるっと白山麓！ 24時間で4県7市村を巡るよくばり旅～ジオパーク&エコパークと白山信仰三馬場を訪ねて～	27名
10月23日～ 10月24日	ポストジオツアー② ここは日本地質学発祥の地～化石と対話するジオ旅へ～「白峰」と「勝山」で恐竜時代にタイムトラベル！	23名
10月23日～ 10月24日	ポストジオツアー③ ダム、砂防、構造物マニアならこのツアー！時に荒ぶる白山と手取川～百年続く「白山砂防」を探求～	15名
10月23日～ 10月24日	ポストジオツアー④ 水との闘いと恵みを体感する旅～手取川が織り成す美景を堪能～	24名
10月23日～ 10月24日	ポストジオツアー⑤ 世界でここだけ！フグの卵巣の糠漬けを食す地を探訪～北前船と伏流水の美川地区めぐり～	16名
通年（8件）	毎日開催！ まち歩きジオツアー	計37名
通年（11件）	プライベートジオツアー	計172名

令和4年度 白山手取川ジオパーク公認観光ガイド養成講座及び認定試験

研修項目	日時	研修内容
▲オリエンテーション 白山市の観光の現状	6月15日	白山手取川ジオパーク公認観光ガイドについて
▲ジオパーク山と雪のエリア	6月22日	山と雪のエリアについて
▲ジオパーク川と峡谷のエリア	6月29日	川と峡谷のエリアについて
▲ジオパーク海と扇状地のエリア	7月6日	海と扇状地のエリアについて
▲ツアーを作ってみよう	7月13日	グループワーク
▲ガイド台本をつくってみよう	7月20日	グループワーク
★ホスピタリティー&マナー①	7月27日	白山認定ガイドとしての接遇、おもてなし、マナー①
★現地研修①	8月27日	実地研修
★現地研修②	9月3日	実施研修
▲白山手取川ジオパークの歴史と文化①	11月16日	歴史と文化について①
▲白山手取川ジオパークの歴史と文化②	11月30日	歴史と文化について②
★ホスピタリティー&マナー②	12月7日	白山認定ガイドとしての接遇、おもてなし、マナー②
▲白山手取川ジオパークの動植物	12月14日	動植物について②
★救命救急	1月28日 2月4日	普通救命講習（白山野々市広域消防本部）
登録資格認定試験（面接）	1月14日 1月16日 1月17日	10分程度の面接（実技を含む）
登録資格認定試験（筆記）	3月5日	白山検定の問題を使用

★：必修科目 ▲：普通科目

※白山手取川ジオパーク公認観光ガイド養成講座を修了するには、必須科目を全て履修し、かつ普通科目を6科目以上履修する必要がある。

※白山手取川ジオパーク公認観光ガイドの登録資格を得るためには、養成講座を修了してから2年以内に公認観光ガイド登録資格認定試験の面接と筆記に合格する必要がある。

(2) 新商品開発費の助成

白山手取川ジオパークにちなんだ新商品の開発に対する助成金事業を行った。市内の法人又は個人事業主が新商品を開発するために要する経費に対し、予算の範囲内で1件あたり上限10万円を助成し、エリア内外における普及・啓発とともに、地域経済のさらなる活性化や、ジオパーク関連のお土産をより充実させることを図った。(助成実績：4件)

当事業を用いて開発された商品



布ぞうり・着物 de 五本指



アクセサリ



古代米パン



ペーパーウェイト

(3) 水の旅案内人事業

日常生活の中で家族や知人に、又は日々の業務の中でお客様にジオパークの魅力や見どころをPRする、水の旅案内人の講座を計3回開催した。金城大学の学生や湊地区の住民など、新たに113名が水の旅案内人となった。

(4) 看板等ジオパークの基盤整備

白峰地域の西山高山植物園付近の1基及び鶴来地域の七ヶ用水白山管理センター付近に設置している1基、また、松任地域の白山市立松任図書館付近の1基、合計3基の解説看板を盤面リニューアルした。

※白山市事業

4 マーケティング

(1) 各種広報・啓発活動

市広報紙やインターネット、ケーブルテレビなどを利用して、情報発信を行った。

①「広報はくさん」を活用した啓発

白山市の広報紙「広報はくさん」を利用して、白山手取川ジオパーク公認観光ガイド養成講座への参加募集や、第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会の開催告知など、計15件の原稿を投稿した。

②「あさがおテレビ」と連携した啓発

市内で視聴可能なケーブルテレビ「あさがおテレビ」と連携し、シリーズテーマを「白山の美味しい見つけよう！！ぶらり白山手取川ジオパーク～ジオ食べよ編～」とする番組を放送した。エリア内の郷土料理を紹介しながら、それぞれの地質学的な背景を説明する構成で、毎月1回、計12回の番組を制作した。

③インターネットによる情報提供（エリア外への普及啓発を含む）

台湾や香港、中国などのアジア圏から訪れる観光客に向け、より一層のPRを図ることを目的に、白山手取川ジオパークのHPに繁体字・簡体字のページを追加した。地域の概要や見どころについて、和文ページと同様の内容で掲載し、今後の集客に向け準備を進めることとなった。

令和2年度より、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）にてイベント情報などの広告を掲載しており、今年度も5月から10月までの期間限定で実施した。

5月と6月の2か月間には、白山恐竜パーク白峰に新展示「化石になろう」を追加したことを掲載し、新展示のPRと合わせてSNS広告を活用したキャンペーンを開催した。キャンペーンは、来場者が「化石になろう」コーナーの展示とともに写真を撮影し、その画像を白山恐竜パーク白峰のスタッフに掲示することで缶バッジや恐竜人形などのジオパーク関連グッズがもらえるくじを引くことができるというもので、計135名がくじに参加した。

この他、白山登山バスや「ゆきママを探せ！」スタンプラリー、第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会についても広告を出し、5月から10月の期間でインスタグラムのフォロワーが約210名増えた。



SNS 広告で掲載した「化石になろう」コーナー紹介の画像

また、Facebook、Instagram などの SNS や協議会 HP のブログページを活用し、白山手取川ジオパークに関連するイベント情報や観光情報などについて普及した。SNS に関しては、システムの不具合等があり、今年度の投稿は例年に比べ減少した。

令和 4 年度の投稿数

媒体	投稿数
Facebook	1
Instagram	9
HP (ブログページ)	10
HP (イベントページ)	21

HP の閲覧数をみると、令和 3 年度と比較すると令和 4 年度はユーザー数が 34.1%増加、ページビュー数は 21.4%増加した。

令和 4 年度 HP 閲覧結果

年度	ユーザー数	ページビュー数
令和 3 年度	44,575名	121,608名
令和 4 年度	59,775名	147,619名

④イベント時における紹介ブースの設置

獅子吼高原で行われたサンセットゴンドラの営業時や、白山比咩神社で開催されたどんじゃら市、恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークで開催されたジオパークフェスタ 2023 等のイベントに合わせ、白山手取川ジオパーク輪投げコーナーを出店し、普及活動に努めた。また新型コロナウイルス感染症や雪不足の影響で3年振りの開催となった雪だるま祭りでは、金沢星稜大学の学生と協力し、しし汁やクイズラリー、物品販売でブースを設置した。

⑤各種パンフレットの作成

既存のパンフレットである「まち歩きジオツアー」の改訂版を 5,000 部作成した。また同様に、白山手取川ジオパーク概要パンフレットの改訂版を 1,000 部作成した。

(2) 看板広告等による広報・啓発活動

広告活動として、広く多くの人の目に留まるように、看板広告等の掲示を行った。

①金沢駅及び小松駅での啓発活動

金沢駅コンコースのデジタルサイネージを利用し、広告動画を掲出した。今年度は白山手取川大会開催と合わせ、白山手取川ジオパークを認知してもらうための動画を掲出した。

②北陸鉄道車両へのヘッドマークの取り付け

北陸鉄道石川線の一部車両に、ゆきママとしずくちゃんをメインデザインとしたヘッドマークを取付け、白山手取川ジオパークの啓発を行った。また、今年度は鶴来駅から近い獅子吼高原の PR も兼ね、パラグライダーのゆきママとしずくちゃんデザインにリニューアルし、見栄えの向上を図った。

③松任駅での看板掲示

JR 松任駅の自由通路の看板を、季節ごとに切り替えて活用し、白山手取川ジオパークの啓発を行った。

④写真撮影パネルの作成

白山手取川ジオパークを訪れた人が Facebook や Instagram といった SNS 等で、白山手取川ジオパークの魅力を広く一般に発信するため、北陸鉄道鶴来駅の正面入り口に写真パネルを設置した。パネルと一緒に撮影することができ、キャラクターを活用し、様々な世代の人が親しめるよう工夫した。

北陸鉄道鶴来駅の写真パネル



(3) イベント等の実施による啓発活動

白山市地域振興公社が主催となり、アニメや映画等で活躍する声優を招聘した朗読劇及びトークショーを計2回開催した。白山手取川ジオパークを題材に、声優2名と司会者1名計3名による掛け合いでトークショーを繰り広げ、白山手取川ジオパークのキャラクターであるジオ博士やゆきママとしずくちゃんも登場することで、地域の魅力や大地の成り立ちについてPRした。参加者層は10～20代の若い世代が多く、これまで白山手取川ジオパークを訪れたことのない市外・県外の方といった、新規客層をターゲットにすることができた。

(4) キャラクターによる広報・啓発活動

イメージキャラクターの「ゆきママとしずくちゃん」を活用した広報活動を行い、白山手取川ジオパークの知名度の向上に取り組んだ。

①着ぐるみの貸し出しによる普及・啓発

各種団体にイメージキャラクターの着ぐるみを貸し出し、より多くのイベントなどにおいてキャラクターを通じたジオパークの認知度を高める活動を行った。なお、当協議会によるキャラクターの出動分と貸出件数を合わせると、令和4年度は全22回となった。

②各種印刷物等へのキャラクターの掲載

各種団体からの求めに応じ、各種印刷物等へイメージキャラクターの掲載を行い、白山手取川ジオパークの啓発に取り組んだ。(17件)

③ゆきママとしずくちゃん LINE スタンプ

令和2年度に作成し LINE ストアで販売しているゆきママとしずくちゃんの LINE スタンプ (40種類) の、令和4年度の販売数は11件であった。



ゆきママとしずくちゃん LINE スタンプ

5 ネットワーキング

(1) ジオパークネットワークにおける活動

令和4年度は、日本ジオパーク全国大会の当地における開催と、ユネスコ世界ジオパーク認定にかかる現地審査が行われ、白山手取川ジオパークにとってネットワーク活動が大きく動いた一年となった。またこの他にも、タイで行われた国際会議や JGN 全国研修会等への参加、ジオパークネットワークを活用したスロバキアからの学生受け入れを行ったりと、国内外を問わず活動の幅を広げ、ジオパーク関係者や地元住民との交流が深まった。

①第7回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム

タイのサトゥーンユネスコ世界ジオパークで行われた本シンポジウムに、当協議会専門員と金沢大学ママドゥア・アイダ准教授が参加し、アイダ教授から、白山手取川ジオパークにおける地質や生態系の多様性についてプレゼンを行った。

②ユネスコ世界ジオパーク認定にかかる現地審査

令和2年度10月に日本ジオパーク委員会から国内推薦を受け、同年11月にユネスコ世界ジオパーク認定に向けた申請書をユネスコへ提出していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、海外からの審査員が来日できない状況が続いたため、最終関門である現地審査が延期されていた。令和4年度になり、海外渡航緩和を受け、ノルウェーとマレーシアからそれぞれ1名審査員が派遣されることが決まり、10月に現地審査を行った。

小学校をはじめとした教育機関や商工会といった、当協議会を構成する団体や、連携する企業、地域のボランティア団体、地元住民等と協力し、桑島化石壁や綿ヶ滝等の現地案内をするとともに、これまでの活動のPRを審査員に向けて行った。

現地審査後、ユネスコ世界ジオパークカウンスル会議でユネスコ世界ジオパーク認定の勧告を受けることとなり、令和5年5月には正式認定されることとなった。

③第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会

第12回目となる日本ジオパーク全国大会を、当地で開催した（詳細は大会報告書に記載のとおり）。

大会名称：第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会

テーマ：地球と旅する～白山手取川の地から地球と人の未来を考
える～

会期：令和4年10月21日（金）～23日（日）

※期間の前後にジオツアーを実施

会場：白山市松任文化会館ピーノおよびJR松任駅周辺施設

主催：第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会実行委員会

大会のべ参加者数／18,860人

開催日	プログラム名	参加者数
10月21日（金）	プレジオツアー （1泊2日・3コース）	53
	白山市・クスリのアオキ文化創生プロジェクト 竹内海南江スペシャルトークショー	1,000

10月22日(土)	開会セレモニー	1,000
	基調講演	700
	パネルディスカッション①	700
	パネルディスカッション②	200
	分科会(6会場)	308
	市長村長等セッション	46
	ユースセッション(～23日)	38
	交流会	425
	ポスター発表 一般・小中高生の部 (～23日)	700
	いいとこ白山フェア(～23日)	12,727
10月23日(日)	口頭発表 一般・小中高生の部	470
	閉会セレモニー	400
	ポストジオツアー (1泊2日・5コース)	93
	合計	18,860

第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会の様子



④第17回日本ジオパーク全国研修会 in 栗駒山麓

11月に栗駒山麓ジオパークで行われた第17回日本ジオパーク全国研修会に、当協議会の事務局員1名が参加した。フィールドワーク及びグループワークを中心としたプログラムのなかで、研修テーマである「保全と活用」について学びを深めた。

⑤海洋ゴミシンポジウム in 隠岐

隠岐ユネスコ世界ジオパークと日本ジオパークネットワークが共催で「海洋ゴミ」をテーマとしたユース向けの国際シンポジウムを開催し、そのなかで白山手取川ジオパークからは、金城短期大学の学生4名が参加し、英語による活動紹介を行った。

⑥スロバキア共和国からの視察受け入れ

スロバキア共和国から、スロバキア科学アカデミー主催の科学コンテストで成績優秀者となった高校生5名と担当研究者が来日し、白山手取川ジオパークや糸魚川ユネスコ世界ジオパーク等日本のジオパークを巡検することとなり、当協議会専門員が当地での視察に協力した。

⑦特定非営利活動法人日本ジオパークネットワークにおける職員の
実務研修

令和5年5月に白山手取川ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定される見込みとなったことを受け、認定前後には、特にユネスコ国内委員会をはじめとした関係機関との連絡調整及び情報収集等に迅速に対応する必要があり、さらに、今後の日本ジオパークネットワーク内における白山手取川ジオパークの役割の重要性が高まる状況を鑑み、当協議会の事務局員1名を令和5年2月1日から約2年間（予定）、日本ジオパークネットワークに実務派遣することとなった。

令和4年度 ジオパークネットワークにおける活動実績一覧

※JGN：日本ジオパークネットワークの略

GP：ジオパークの略 UGGp：ユネスコ世界ジオパークの略

開催日	名称	開催地
4月22日	第25回JGN理事会	東京都
5月21日	JGN運営会議	千葉県・幕張
5月29日～ 6月2日	日本地球惑星科学連合2022年大会（オンライン参加）	千葉県・幕張
5月26日	第26回JGN理事会	東京都
6月15日～ 25日	ユネスコ世界ジオパークオンライン研修会2022（オンライン参加）	ギリシャ・レスボス UGGp
9月7日～11日	第7回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム	タイ・サトゥーン UGGp
9月22日	ニュージーランドのワイタキホワイトストーンジオパークとのマーケティングに関する意見交換会	オンライン
10月5日～9日	ユネスコ世界ジオパーク認定にかかる現地審査	白山手取川 GP
10月21日～ 23日	第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会	白山手取川 GP
11月20日～ 23日	第17回日本ジオパーク全国研修会 in 栗駒山麓	栗駒山麓 GP
1月30日	UGGp地域事務局長会議	東京都
2月21日	JGN役員地域事務局長会議	東京都
3月11日	ジオパークフェスタ2023	恐竜渓谷ふくい勝山 GP
3月11日	海洋ゴミシンポジウム in 隠岐	隠岐 UGGp
3月24日	第5回中部ブロック会議	オンライン

(2) 白山ユネスコエコパークとの連携

白山ユネスコエコパーク協議会と白山手取川ジオパーク推進協議会が共催で、白山ユネスコエコパークの理念や制度、白山手取川ジオパークとの関り等を題材とした「第1回白山ユネスコエコパーク・リレーシンポジウム」を開催した。シンポジウムはカフェ形式で開催し、地域住民が気軽に学びを深められる場とした。第2回は郡上市が令和5年度事業として開催予定。(令和6年3月21日実施 参加者39名)

(3) 民間団体との連携協定の締結

白山手取川ジオパークのエリア内で活動する民間団体と連携・協力し、白山手取川ジオパークの活動に取り組むことによって、白山市の持続可能な発展に寄与することを目的とした「白山手取川ジオパークの推進に関する連携協定」を下記の1団体と締結した。(合計24団体)

●令和4年年度連携協定団体 (1団体)

- ・Q I N O

令和4年度連携協定締結式の様子



【参考】連携協定締結団体一覧

●平成30年度締結団体 (6団体)

- ・白山しらみね自然学校
- ・美川おかえりの会
- ・白山スノーフェスティバル実行委員会
- ・加賀白山ようござった
- ・雪だるま実行委員会
- ・白山ジオトレイル実行委員会

●令和元年度締結団体 (7団体)

- ・白山市体育協会
- ・白山一里野温泉観光協会おかみの会
- ・東大寺領横江荘荘園まつり実行委員会
- ・白山麓ぶなもり自然塾
- ・アサギマダラファンクラブ白山
- ・美川自然人クラブ
- ・ひまわりの集い実行委員会

●令和2年度締結団体 (5団体)

- ・白山市吉野地域振興協議会
- ・白山市ふるさと歴史研究協議会
- ・白山自然ガイドボランティア友の会
- ・白山市松任写真同好会
- ・一般社団法人 石川県地質調査業協会

●令和3年度連携協定団体（5団体）

- ・東二口文弥人形浄瑠璃保存会
- ・深瀬木偶回し保存会
- ・深瀬絵細工工房
- ・つるぎふるさと民話の会
- ・白山温泉郷組合

（４）その他の連携活動

令和2年度6月、株式会社吉田酒造店からの寄付金贈呈を皮切りに、当該企業と白山手取川ジオパーク推進協議会、そして吉田酒造店のHP作成を手掛ける高桑美術印刷株式会社の3者で、環境保全をベースとした共同事業を展開する「Connect HAKUSAN」事業を立ち上げた。

令和4年度は、第12日本ジオパーク全国大会白山手取川大会の開催を記念したオリジナル日本酒「Connect HAKUSAN」の開発及び大会期間限定での販売と、一般市民を対象とした「”手取川”酒造り体験」イベントを開催し、白山の地がもたらす豊かな自然資源の素晴らしさや貴重さについて等、魅力を発信した。

なおオリジナル日本酒「Connect HAKUSAN」及び「吉田蔵 u」シリーズの売上の一部を、令和5年度、白山手取川ジオパーク推進協議会へ寄附いただく予定となっている。

オリジナル日本酒「Connect HAKUSAN」



酒米、仕込み水、酵母、すべて白山産の純米大吟醸。ラベルには写真家谷口京氏の写真3枚を使用

- ・容量 720ml
- ・原材米 百万石乃白 100%
- ・精米歩合 40%
- ・アルコール分 13%（原酒）
- ・価格 2,750円（税込）/本

6 活動実績（R2～R4）

区 分	R 2	R 3	R 4
各種出前講座・研修会開催回数	24 回	19 回	31 回
キャラクター出動回数	2 回	11 回	22 回
各種教育活動実施回数	41 回	39 回	61 回
ジオ遠足実施回数	17 回	20 回	30 回
ジオツアー実施回数	3 回	3 回	24 回
水の旅案内人養成講座開催回数	3 回	1 回	3 回
ジオガイド養成講座開催回数	14 回	14 回	14 回
ビュースポット（視点場）の整備箇所数	3 箇所	3 箇所	3 箇所

7 推進体制（R2～R4）

区 分	R 2	R 3	R 4
協議会職員数 （うち専門員）	21 人 （地質 2、考古 1）	19 人 （地質 2 考古 1）	18 人 （地質 2、考古 1）
専任職員数 （うち専門員）	8 人 （地質 2）	8 人 （地質 2）	8 人 （地質 2）
兼任職員数 （うち専門員）	13 人 （考古 1）	11 人 （考古 1）	10 人 （考古 1）

（各年 4 月 1 日現在）